



NPO 法人として第一歩の年

理事長 竹内 和利

1994 年 インディアナポリス

会員の皆さま、まずは暑中のお見舞いを申し上げます。

今年は東日本大震災という突然の大異変に見舞われ、いまだに多くの方々が仮設住宅での生活を余儀なくされています。原発事故も大きな禍根と将来への不安を残しました。災害に遭われ、被災、避難中の皆さまには心からお見舞い申し上げます。

この忘れがたい大災害の年に、CIF ジャパンは特定非営利活動法人として新たな一歩を踏み出しました。1 月中頃に京都府に書類を提出、4 月初めに認証通知を頂き、すぐに登記手続きを行ったところ、4 月 25 日付けで法人設立が完了致しました。

その後 6 月 4 日、京都で初の理事会と定例総会を開き、法人設立の経過を説明させて頂くと共に、初年度事業計画、事業予算を審議の上ご承認を頂き、初年度事業の実施に向かってスタートしたところです。ご多用の処、遠路会議にご出席下さった皆さん、委任状、議決権行使により総会に参加下さった各位にお礼を申し上げます。

定例総会において議題或いは報告事項として審議に付された事柄の内、いくらかについて、簡略ながらご説明をさせていただきます。(2 ページへつづく)

2011 年度総会開催

— NPO 法人化記念寄付の実施を決議しました —

6 月 4 日、京都府国際センターの会議室において、総会が開催されました。参加者は日本各地から 10 名、NPO 法人認証の報告、事業計画・予算に関する協議、国際研修プログラム参加者支援の報告、CIF 国際会議についてなど多岐にわたり話し合いがおこなわれました。その中で、NPO 法人化を記念して寄付を行い、シンポジウム、パレスチナ代表の CIF 国際大会参加支援などに充てることが決議されました。会員の皆様のご協力をお願いいたします。また、坂岡隆司副会長のご好意により



同氏が理事長をつとめておられる「からしだね館(京都市)」を法人事務所住所として使用させていただくことになり、その報告がなされました。詳細は、本紙 2 ページならびに添付の総会議事録をご覧ください。

(1 ページ上段より)

(1) NPO法人設立記念シンポジウムの開催

この行事の開催については、会員各位にお届けした総会資料に説明を付しておりますが、単なる記念行事としてよりも、NPOとしてC I Fジャパンを広くPRすることが念頭にあります。PRにより国際研修参加への途を広報すること、さらにC I Fジャパンの認知度を少しでも高め、寄付や助成を求めやすくする等の意図があります。

この行事には助成金の申請を行いました。申請はあえなく却下されたとの通知を総会後に受け、まずは機先を制せられました。その結果、会員各位からのご寄付を仰いで財源とさせて頂くこととなりました。目標額は5万円としていますが、何卒精一杯のご協力をよろしくお願い申し上げます。

シンポジウムでは登壇して頂く講師の顔ぶれを、会員有志のご登壇などをも考慮して再検討しているところです。会員各位のご推薦、ご要望を仰ぎたいところです。

尚又、助成金の解消によりその制約が外れましたので、京都での開催に限らず、東京にても同時開催してPRの機会を拡げることが検討中です。

(2) 国際研修支援事業について

ご周知のように青木雅子さんがC I Fスコットランドでの研修に参加され、6月中旬に研修を終えて帰国されました。すでに東京で帰国報告会ももたれております。たいへん喜ばしいことと存じております。

これに勇気づけられ、事業計画では来年度少なくとも3名の研修参加が実現することを目指しています。このため出来るだけ国際研修プログラムの周知を図りたいと考え、社会福祉系の財団、法人などへの働きかけ、無料広告が可能な福祉系情報誌などへの掲載を試みています。皆さまには例年お願いしているところですが、身近におられる個人や法人・団体などに国際研修参加へのご勧誘と研修プログラムのご紹介を重ねてお願い申し上げます。

(3) パレスティナ代表のC I F国際大会参加支援について

この案件は総会議案には当初なく、理事会に諮った上で総会に上程したものです。メールをお持ちの皆さんには本年4月18日付けで配信させて頂きましたが、現C I F会長メローラ氏からメッセージが届きました。それによれば今年のキプロス大会に、C I Fイスラエルの仲介によりパレスティナの代表3名が参加申込みをされたとのことでした。メローラ会長は、現下のイスラエルとパレスティナとの永続する対立について、ささやかでもC I Fによる平和的解決への意思表示をしたいという気持ちを表明しておられます。そして故オーレンドルフ博士がかつて、敗戦国ドイツの青年たちをアメリカの家庭に招致したことでC I Pの歴史が始まったことを挙げて、人類が相互理解をめざす精神を、C I Fの世界大会に於いてささやかでも具現化しようと、世界のC I F会員に呼びかけておられます。

総会ではこれに少しでも協力することが決議されましたので、寄付が重なって恐縮ですが、ご協力の程お願い申し上げます。

(4) 2011年C I F国際大会（於キプロス）

今年9月末から10月初めにかけてキプロスで開催されるC I F国際大会に、現時点でC I

Fジャパンからの参加者はございません。個々の事情により私ども役員も、事前の代表者会議を含めて、残念ですが出席できません。ご了解下さい。

尚、本大会では、本年2月18日付けで会員各位にメールにて配信致しましたCIF50年に関するアンケート調査の結果が公表され、広く論議を呼ぶことが予想されます。これからのCIFのあり方について、実りのある討議とその成果が期待されます。

次回2013年の大会はトルコで開催されると思われまますので、どうか今から一人でも多くの方が参加されますよう、参加をご計画ください。

総会に関して、またCIFジャパンの運営につきまして、ご意見、ご要望を事務局宛にメールなどでお伝え頂ければ有り難いと存じます。どうか暑さ厳しき折、お元気にお過ごし下さいますよう。

(京都府在住)

総会に出席して

植 清輔

1969年 シカゴ

久しぶりにCIFジャパンの定例総会に出席させていただき、役員の方々の熱意に触れ、休眠会員であることに申し訳なさを感じました。

CIFジャパン設立の頃は東京にいたので何度か会合には出席をしたのですが、2003年に社会福祉法人賛育会を退職してからは、あまり各種の会合には出席せず、また近くの京都に事務所が移っているにもかかわらず、もっぱらお送りいただく書類を見るのみでいたため今回総会での情報は目新しいものばかりで驚きも大きなものでした。

一つは、CIPの研修の範囲が私が参加した頃の青少年指導者とソーシャルワーカーから非常に拡大されていること、研修のスタートのときに全員合同のオリエンテーションがありそのあと各地に分かれて研修を受けた後、再度集まり終了となり帰国するものとエクステンションのプログラムに入るものとに分かれたこと。このことが各国からの参加者同士が親しくなり、各国のCIFの繋がりも生まれてきたのではないかと感じていました。

もう一つは、各国のCIFの国際研修計画が目白押しで、日本からも参加希望者が出てきてお

り、CIFジャパンがお世話をしていることでした。Dr. Ollendorffの願っておられた国際理解が各国の参加者によって広がっているということでした。

これからも時々は会合にも出席させていただこうと思っています。

(社会福祉法人賛育会顧問、滋賀県在住)

加納光子

1977年 コロンバス

初めてお目にかかる方、何年ぶりかでお目にかかる方、色々であったが、皆、CIP研修の思い出は共有しており、会場でお話をうかがっていると、CIP研修に参加したころのことが色々、懐かしく思い出され、一種の“コーホート”にいる感じがした。

会議終了後は、同じく京都駅構内にある料理店で、久々の京料理を味わった。ここでも、過去、現在、未来へと話のタネは尽きず、楽しい懇親会となった。

最後に、2013年のトルコでの世界大会の参加を約して、散会となった。

お世話いただきました竹内理事長はじめ、役員、その他の皆様に御礼申し上げます。

(武庫川女子大学発達臨床心理学研究所
嘱託研究員、大阪府在住)

